



発行日：平成 26 年 7 月 25 日  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 18 回山部会WGを開催しました！

7 月 25 日（金曜日）に第 18 回山部会WGが開催されました。今回の WG は、午前中にトヨタ自動車（株）の「新研究開発施設」（テストコース）の視察を行い、大規模造成による山地森林地域の改変や環境負荷低減策を見学しました。

午後は豊田市役所足助支所にて会議を行い、今年度進めている 4 つのワーキングについて、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。



日時：平成 26 年 7 月 25 日（金）9 時～17 時  
場所：トヨタ自動車（株）：新研究開発施設、豊田市役所足助支所  
参加者：24 名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

#### 1. 山村再生担い手づくり事例集について



「山村再生担い手づくり事例集」は、山村再生の担い手が活動する団体の取材先候補について話し合い、取材者を決めるとともに、流域圏一体化や連携のとりくみについて話し合いました。

また、各部会間の連携を進めることを目指して、川部会・海部会メンバーに取材への参加を呼びかけながら進めつつ、海や川で山と関わりをもつ団体も取材先を含めて検討していくという提案がありました。



#### 2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



矢作川流域圏森づくりガイドラインは、WG の中で森づくりガイドラインの策定、モデル林の設定とそこでのモニタリングの試行的実施を行うことを目的としています。

今回の WG では、矢作川流域圏を構成する自治体の特徴的な森づくりの取り組みについて情報共有を図りつつ、流域圏懇談会に参加することを通じて、本当の意味での森林計画を作成していくことも視野に置いて、できる範囲で、柔軟に進めていくことを確認しました。



#### 3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動（「さあ～しよう」）を考えて、これを核とし、その行動・活動を行政・業界・研究が支援していくことを目指しています。

根羽村独自の木づかい推進活動や「とよた森林学校」の事例から学ぶ活動などの紹介を通じて、木の魅力と楽しみを考え、継続的な活動に導く行動について話し合いました。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手事例集の作成スケジュールについて

以下のように進めることを想定します。

7月(取材先の選定) → 8月(取材者の募集) → 9月(取材者と取材先のマッチング)  
→ 9月中旬:取材実施(11月までを予定)

### ●主な意見と現時点での取材先一覧

- 取材先の方々の交流会に関連して、取材者間でつながる機会がないようなので、そのような場があればよいというご意見を頂いた。(洲崎)
  - 交流の場づくりは、取材先の団体の若者達にプランを立ててもらって、協働して進める方法も考えられる。(今村)
- 昨年度の事例集作成をきっかけとして、自発的な交流がでてきた点は効果の現れの一つといえる。(丹羽)
- 取材者の人数が取材先の数に対応可能なほど集まるのか危惧している。海部会、川部会の方々の参加については、ハードルが低くないと思う。(蔵治)
  - 取材先に山にかかわりのある川の団体や海の団体を含めることも考えられないか。その方が、川・海のメンバーが行きやすいのではないか。(高橋)
  - 今回の意見をふまえて、取材先は次回のWGで決定したい。(洲崎)



### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインは流域圏の森づくりのカタログを作成し、森林所有者や行政、森林組合等の情報源として活用してもらうと同時に、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とすることを目的としています。

特に、四万十川の保全及び振興に関する基本条例の事例紹介を通じて、矢水協の紳士協定にも触れながら、各自治体の取組や森づくりの方向性について共有されました。

#### ○主な意見

- 森づくりという面で、矢作川森の健康診断の第10回検証と10年間の振り返り、10年後の流域、100年先の森づくりを展望する会が企画されており、流域圏にとっても森づくりの重要なエポックもあるので情報共有することが重要と思う(丹羽)
- 来年度は流域圏の首長による討論など源流サミットを開催できればよい(今村)



### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

市民、市町村、業界、研究者がそれぞれ、各主体に向かって提案をする「さあ~しよう」のフォーマットに基づいて市民がアクションを起こせるガイドラインを作成することを目的として継続して話し合いをしていくこととなりました。

特に、今回のWGでは、根羽村木のある暮らし講座や根羽村オリジナルスギダラ商品開発・森の生活実践事業、信州の木活用モデル地域支援事業などの事例紹介などが行われ、メンバーの情報共有が図ることができました

#### ○主な意見

- 林家のモチベーションは地域によって違う。森林組合に任せるとどんな木を切られるか不安がる人もいる中で流域圏として木づかいを推進していくことが重要(安藤)
- 木工業者、製材所、建築家等の連携が重要となる。(今村)



### ●その他(山村ミーティングについて)

昨年度作成した山村再生担い手事例集の取材の過程で、串原農林と根羽村森林組合の若者同士が、取材後に自発的な意見交換の場もたれた例がみられました。こうした結びつきについて、山村ミーティングとして引き続きサポートをしていくことが提案されました。

#### ○主な意見

- 豊田の若い人もいれてあげてほしい。豊田の森林組合について1ターンも結構おり、声をかければくるのでぜひ交流を図っていければよい。(山本)
- 岡崎森林組合の職員が演奏する「岡森フォレストーズ」のライブを矢作川流域圏に周知して山の仲間を集めるのも一つの手として考えられるので企画について検討したい。(丹羽)



## 今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第19回山部会は8月19日(火)岡崎ぬかた会館にて開催します。

